

研修のご報告

まち活リーダー研修 長野県小布施町

おぶせまち

10月15日～16日、町内でまちづくり活動に携わっている方を対象に、自宅の庭を来訪者に公開する「オープンガーデン」などの取り組みで注目される長野県小布施町を訪問しました。



6名が参加し、地域の風土に根付く「家の外はみんなのもの」というおもてなしの考え方や、住民が主体となり、暮らしの延長で楽しみながら活動していくコツを学び、参加者からは「今後の活動に役立てたい」といった感想が聞かれました。



■小布施町について

- ・人口約11,000人、面積約19km²
- ・「栗と北斎と花の町」として全国的に注目され、年間120万人の観光客が訪問

■研修テーマと訪問先

【景観まちづくり】

- ・町並み修景エリア
- ・オープンガーデン(個人のお庭7件を訪問)
- ・フローラルガーデン(花のまちづくりの発信拠点)

【地域資源の活用】

- ・小布施屋(特産品のブランド化)
- ・OBUSE花屋(地元食材の提供)

【遊び場づくり】

- ・浄光寺スラックラインパーク
(寺子屋活動からワールドカップを開催する規模に発展)

【住民活動と組織運営】

- ・日本笑顔プロジェクト(復興支援を通じ、女川と交流)
- ・いいだん会(物産イベントで地域活性化)
- ・おぶせエバーグリーン(マルシェを開催する女性団体)



《女川と小布施の交流秘話》

東日本大震災を機に浄光寺副住職の林映寿氏が発起人となり「日本笑顔プロジェクト」を設立。震災翌月から、女川町で炊き出し、支援物資の提供を行いました。現在もスラックラインなどを通じて女川との交流が続いています。

■参加者のコメント ～研修での学びと気づき～

●文化、風土、ヒトの違いを再確認

- ・小布施の町民はおもてなしを大事にする。
- ・イベントは役場主導ではなく、町民主体で運営。
- ・活動は誰かがやってくれるのを待つのでなく、やりたい人が自分のできる範囲で始め、人を集める。

●その土地に合ったものを作って町が活性化

- ・人口は震災前の女川とほぼ同じ。土壌は強酸性で、川には魚もいない。そんな土地に合った栗やりんご、ぶどうを上手に育て、町を盛り立ててきた。
- ・何歳になっても体を動かせる畑や庭が元気の源。

●気軽に立ち寄れるスラックラインパーク

- ・やりたい人が、やりたい時に、やりたいだけできる！
- ・先に上達した人が、年齢関係なく先生になって、教えている。
- ・人目につく場所であれば、見た人もやりたくなる！

●趣きある町並みと人の温かさで和ませる町

- ・町を歩くと、庭先にオープンガーデンの看板があり、誰でも気軽にお庭を拝見できる。
- ・個々の花への取り組みがしっかり根付き、自然や文化と景観が調和を大事にしている。

●イキイキと活動している女性の姿が印象的

- ・女川にも手作り、もの作りをしている女性が多いので、みんなでマルシェを開催できるとよい。
- ・商店街にハンギングバスケット等を飾れば、花好きの方がもっと訪れてくれるはず。

●自然体でいながらも存在価値がある活動団体

- ・活動には「言いだしっぺ(リーダー)」がいて、リーダーシップを発揮すると、推進者や協力者が現れる。そこに共感が生まれ、集う人たちが自分ごとと捉え、みんなのこと・地域のことにつながる。



活動の告知など、まち活通信に掲載したい情報があれば、お気軽にご連絡ください！

◆発行・問合せ先 女川町まちづくり推進協議会事務局(役場復興推進課復興調整係)

☎54-3131内線623 メールアドレス：fukko7@town.onagawa.miyagi.jp

○まち活フェイスブック まち活@おながわ で検索